

知り合うことから始めませんか。

現在、鬼北町には72人の外国の人たちが住んでいます。

出生、国籍、宗教、そして鬼北町に来た理由はさまざまかもしれませんが、今この瞬間は同じ鬼北町民です。

そんな外国の人たちと「話してみたいな」と思ったことはありませんか。「異国の文化を知りたい」、反対に「もっと日本、そして鬼北町のことを知って、好きになってほしい」と思ったことはありませんか。

「あいさつをする」「ちよつと一言声をかける」そうして一歩踏み出せば、きつと心は通じ合うはずですよ。そして、そこから、お互いにとっての新たな世界の始まりとなることでしょう。

鬼北町ではこれまで外国人の人たちと交流する機会はありませんでした。今回、好藤公民館で行われた「異文化交流会」。その様子を少しだけですが紹介します。

—全てが新鮮で、惹かれる町—

平成24年10月から好藤地区の渡辺牧場に来ている2人の研修生

鬼北町のこと、そして鬼北町民のこと

彼女たちはどんな風に感じているのでしょうか



【写真右】アイミー・ロブレス(フィリピン・プラリデル出身)
【写真左】シェルニー・デラ・クルズ(フィリピン・マロロス出身)

鬼北町に来たばかりの頃は、家の周囲を囲む山、初めて使う機械など、見知らぬ土地での生活に不安もありました。

鬼北町の人たちは、とても真面目で、仕事熱心な印象です。お年寄りの方まで、一生懸命仕事をしていることに驚きました。そして、とても親切です。

これまでに地区の運動会や「でちこんか」などに参加してきました。少し恥ずかしかったですが、成川の温泉にも初挑戦して、「鬼北町」を満喫しています。

5月に行った交流会では、フィリピンの食べ物、皆さんが積極的に口にしてく

れたことが嬉しかったです。いろいろな話もでき、とても楽しい時間でした。

私たちが鬼北町に迎え入れてくれて、ありがとうございます。そして、親切にしてくれて本当に感謝しています。私たちは、たくさんのお話を学んだ渡辺牧場のことを決して忘れないでしょう。渡辺牧場の皆さんは、私たちが家族の一員のように接してくれます。

私たちがここで関わった異なる文化やイベント。それらは全て私たちにとって価値のあるものです。本当にありがとうございます。私たちはこの町が大好きです。